

# THE YMCA

## 日本YMCA基本原則

私たち日本のYMCAは、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ世界のYMCAとのつながりのなかで、次の使命を担います。

私たちは、すべての人びとが生涯をとおして全人的に成長することを願い、すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし痛みを分かちあう社会をめざします。

私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます。

2016年3月1日発行 (毎月1日発行)  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円 (外税) (送料62円)  
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区本町町7  
TEL: 03-5367-6640 FAX: 03-5367-6641  
URL: <http://www.ymcajapan.org/>  
発行人/鳥田 茂 編集人/山根 一般  
印刷/あかつき印刷株式会社

## 生涯の友情 — 震災から花開いたもの

JCCCNCボランティア (日系4世・サンフランシスコ在住)  
ダイアン・マツダ



21年前といえば、ずいぶんと昔のことだと思う方も多いのではないのでしょうか。しかし、私にとっての21年前、つまり1995年は人生を変えた年として、これからも私の心に刻まれていることなのでしょう。なぜならこの年の1月に、神戸YMCAのスタッフに出会ったからです。その出会いがあったからこそ、コミュニティーサービスという使命に導かれ、今もその働きを続けています。

私はそれまでYMCAを知りませんでした。もちろんサンフランシスコの自宅周辺にはたくさんのYMCAがありました。プログラムには参加したことがなかったのです。しかし1995年1月17日の朝に発生した、阪神淡路大震災が転機となりました。私は、多くの個人や団体のボランティアに混じって、神戸YMCAが行う復興支援活動に参加したのです。そしてまず知ったのは、差し伸べる手と寄り添う心が、コミュニティーにどんなインパクトをもたらすかということでした。

私は当時、北カリフォルニア日本文化コミュニティーセンター (JCCCNC) \* という団体の代表を務めていました。JCCCNCは1971年の発足以来、トラウマに起因する病と向き合い、心を健康にするトレーニングセミナーから、青少年の親善交流や地域の孤児院訪問に至るまで多くのプログラムを開発し、今も実施を継続している団体です。JCCCNCは被災地で神戸YMCAと出会い、私たちの間には深い友情が芽生えました。

非常事態にあっても、被害をはなはだしく受けた人たちに對してだけでなく、被災した社会に寄り添おうとする私のような他者に対して、YMCAスタッフやリーダーたちが示してくれた特有の優しさや心配り、感謝の気持ちを、私は決して忘れることがないでしょう。復興支援から生まれたつながりは終わることなく、ここから、生涯続く友情が育まれていくのを私は感じていました。

そして2011年3月11日、東日本大震災が発生しまし

た。東北で大変なことが起こっていると知った時、今、現場でどのような支援が可能なのかを知るために、私たちがとっさに連絡を入れたのはYMCAでした。

数日のうちに、仙台YMCAのスタッフと日本YMCA同盟を紹介してもらい、4月には東北に入り、避難所の人びとへの緊急支援物資の配布を仙台YMCAスタッフと共に行いました。

YMCAスタッフは日本全国から交替で東北に派遣されてきました。生きていくのに必要なライフラインが途絶えても、自宅にとどまることを願うたくさんの人たちを援助するために、ボランティアをコーディネートし、適切な指示を与えるYMCAスタッフの姿に、私は心打られました。

5年後の今も、YMCAは3.11の被害を受けた人たちを支援する、アクティブな団体であり続けています。人びとの生活と社会の再建、復興が一夜にしてなることはありません。復興に着実に取り組む組織と人の働きがなければ不可能です。だからこそ、人びとが日常を取り戻すには何年も、時には何十年もかかることを知るYMCAを、私たちは支援してきました。

3.11を忘れたことはありませんが、それ以降に発生する多くの災害や出来事のために、この未曾有の災害が発生した日は、いずれ風化してしまう恐れがあります。しかし、この日が多くの人びとの人生を永久に変えてしまった現実を覚えていることは重要です。JCCCNCに関わる私たちは、YMCAと共にこの支援活動に取り組んでこられたことを誇りに思い、感謝しています。そして将来どんなチャレンジに遭遇しようとも、私たちの友情がある限り、ひたむきに共に立ち向かっていけることを、私たちは知っているのです。

\* JCCCNCは、1995年以来、日本各地のYMCAと協働を続けている。東日本大震災では、東北の緊急支援、再建と復興のために400万ドル以上の寄附を集めた。

## レポート

相手と向き合って心を合わせていくこと。(仏語: 親和・共感の関係を)

### 欠け多きもののかげがえのなさ

日本キリスト教団 北海道教会牧師 加藤 久幸

2015年は私にとって、多くの方々に覚えられ、支えられた1年でした。春に病気を患い、そして夏の終わりには水害 (関東・東北豪雨) に遭い、北海道教会と牧師館、関連施設二葉こども園は、大きな被害を受けました。そんな時、9月に日本YMCA同盟より緊急発行された、学生YMCAブックレット「いま、聖書から聴く22の平和説教集」\*を手に取りました。最初は、安保関連法案が成立した時に発行されたことをうれしく思い、政治的・歴史的な関心から読み始めましたが、水害による避難生活の中、今なお続く復興の歩みの途上において、むさぼるように読みふけりました。弘前大学YMCA時代に始まる、私とYMCAとの40年にわたる関わりの中で出会った多くの同世代・後輩の方々が寄稿されており、深い慰めと励ましを受けました。

時を同じくして、ある礼拝で、イエスのたとえ話 (ルカによる福音書10章30~37節) についての説教を聞きました。倒れている人を助けた「よきサマリヤ人になろう」ではなく、「そこに倒れていたのは、この私だったのだ」というメッセージは、水害に遭った私たちに向けて語られたものでしたが、私は、世界の被災

者・難民、現代の社会構造において「倒されている」人びとを思いました。私たちは、生かされている現場に気付かず、自分も他者も知らずにいることがいかに多いのでしょうか。

牧師になろうとした時、私は「行った先々で必要なことに関わろう」と思いました。私の関心や個人的な事情などをはるかに超えて、現場は動いているからです。そこでは時に、自分が生かされている現場でありながら、自分を探したり、自分の居場所を求めたりせざるを得ないことがあります。現場には、ありとあらゆるものが噴出 (湧出・出現) しているのです。

現場で倒され、うめいているのは、私たち人間だけではありません。自然もまた、人間によって破壊され、回復と再生を求めてうめいています。言葉にならない「被造物のうめき」(ローマの信徒への手紙8章22節) に私たちは耳を傾け、倒されているすべてのいのちと共に生き、かけがえのないすべてのいのちが互いを喜び合い、受け入れ合う世界を折り求めていきたいと思えます。

\* 「いま、聖書から聴く22の平和説教集」については、日本YMCA同盟までお問合せください。

Vol.14

### We All Belong to YMCA

YMCAの活動に参画するユースからの発信

#### ◆熊本大学YMCA花陵会(学生寮)

◆内容:1896年発足。熊本バンドにその源流があり、学生の自治運営により共同生活を行う。週1回の聖書研究と命名式など独自のイベントを通して、にぎやかな雰囲気の中で活動中。現在8人が在寮している。

私が熊本大学YMCA花陵会に入ってもう5年になります。寮生活の中で感じてきたのは「人は他者に影響を与える存在である」ということです。私が全国・地区の他大学YMCAとの活動窓口を務めていたころ、寮外の活動に積極的に参加すれば、外ばかりに目を向けていると批判されることもありました。その度に、彼らがどんな思いで行動しているかを知ろうとし、真剣に話し合い互いに心をさらけ出す中で、自分とは異なる考え方や生き方と出会い、尊敬したり、時には反発を感じることもありました。その感情に引張られて、今の自分にたどり着いたのだと思います。今年度から地区共働スタッフとして、学生たちの活動をサポートすることになったのも、この寮生活での経験を通して、自分が与え得る影響をこれからの学Y活動に役立てたいと考えたからです。学Y寮の魅力とは、互いに影響を「与え/与えられる」環境があること、またその「つながり」だと感じています。



全国の学Y代表者と共に(前列左が竹中さん)

今年も全国10大学の学生寮では、新入寮生を募集しています。悩ましくも楽しい学生寮での活動に、共に参加してくれる新メンバーとの出会いを楽しみにしています。

竹中 学彰 (熊本大学大学院・九州地区共働スタッフ)

\*寮生募集については、4面「INFORMATION」をご覧ください。

余島に到着する福島の子どもを迎える高校生リーダーたち



※「避難サポート」のURLは<http://www.hinahyogo.com/>

## 被災地から被災地へ つなぐちから

### わたしたちのちから

2011年のあの出来事は、私たちに大変強い衝撃を与えました。しかしその衝撃に向き合い、これから新たなリーダーが結成され、啓蒙学院を中心とする高校生ボランティアグループが生まれました。そして、寄附を通して社会に貢献したいと願う人びとが立ち上がり、The Partner(私はパートナー)campusという福島の子どもたちを招待するキャンプが始まりました。

戦後間もない1953年、障がいに対する正しい理解や福祉がなかった時代に、神戸YMCA余島は「二人の間」を体現するために、肢体不自由児のためのキャンプを行いました。その余島に今、福島の子どもたちやつなぐちからが来ています。当初は子どもたちの心身のリフレッシュを目標としていたキャンプも、5年目を迎えるにあたり「未来の指導者を育てる」キャンプへと変貌を遂げてきました。

「リーダーになって帰ってくる。そう泣きながら余島を後にした子どもと彼らを全力で送り出したリーダーたち。かつて余島で行われた肢体不自由児キャンプが、その後の「自立の家」を生み出し、数十年かけて障がい者に対する社会的価値観を変えていったように、この5年間子どもとリーダーが培ってきたわたしたちのちからはユースの新しいアクションを生み出し、今これからはユースを生きるすべての人びとに共有される財産になっていくと信じています。

また、神戸YMCAは東日本大震災復興支援活動を行う中で、「避難サポートひまわり」に参画しています。「避難サポートひまわり」は、東日本大震災と原発事故により兵庫県内に避難している方々を支援する個人・団体による緩やかなネットワークとして、2012年8月以降、避難当事者の方々と交流した情報交換や勉強会・交流会を重ねています。ここでは、県内のNPOや社会福祉協議会、弁護士会や臨床心理士会など、多様な団体や機関が連携し、一人ひとりの避難者の社会的・経済的・精神的自立のサポートも継続して行っています。これらの活動を通して、共感の心あふれる市民社会となることを目指す地域のネットワークが、より良い支援につながっていることを実感しつつ、神戸YMCAはこれからも、その員として関わっていきたくて願っています。

神戸YMCA 阪田晃・松田康之



横浜YMCAのスタッフやリーダーとは、宮古での水泳指導ボランティアで知り合った。右から2人目が山崎君

## 宮古に芽生えた、若いちから

### 「おーいカツォー!」

「宮古市内のスーパーで何人かの小学生から大声で「おーいカツォー!」と呼び掛けられました。

うれしそうに話してくれたのは、山崎直人君(宮古商業高校2年)です。リーダーネームは「カツォー」。たまたま、2014年12月のスキーリーダーキャンプで同室だった大学生がマスオだったので、「じゃあ、お前はカツォー」ということでこの名前が付けられました。最初に出会った時は、「つまらなそうな顔をしていて、この子はボランティアには来ないだろうな」と思っていたら、リーダートレーニングに参加した宮古の高校生15人中ただ一人、1月のスキーキャンプに参加。2月の野外活動で再会した時は、別人のように変わっていました。もしかしたら、会った当時は恥ずかしくて、自分を出すのを躊躇していたのかも知れません。

それからというもの、宮古で行うありとあらゆる活動に参加してきています。夏のキャンプでは、朝から晩まで子どもたちと野球をして過ごし、宮古小学校でのミニコンテでは、立教大学YMCAのメンバーとひたすら焼きそばを焼いて参加者に振る舞っていました。11月には、横浜YMCAのYMCAいっしょに祭にも出向き、宮古物産店の手伝いや、幼児スイミングクラスの指導も経験しました。後日、横浜YMCAから送られてきた写真を見て驚きました。それは、子どもに寄り添う中で、楽しさも経験したボランティアリーダーの顔だったのです。

## 自分の「いっしょ」へ提え、向き合おう

横浜YMCA 高村文字

横浜YMCAは、放射線の影響を受ける可能性の高い福島の子どもたちを対象とした保護キャンプや、神奈川県内に避難している子どもたちとその家族を対象としたキャンプを実施してきました。

県内避難家族を対象に、富士山YMCAグループは、夏に参加した子どもたち、今度は家族にも富士山を見せたいと参加。福島で働いてお父さんが横浜駅で合流し家族そろって過したり、3世代が集まったりする機会も出ています。夜の大人たちの交流会では、神奈川県からの手続きのことや学校での体験など、胸の奥底に沈めていた思いがぶつかる瞬間もあり、年月がたつた今だからこそ話し、分かち合える貴重な時間になっているようです。

## 福島の未来へ向けて、 合わせるちから



ファミリーキャンプで、新しい年を始める

当時小学生だった子ども中学生になり、ジェネレーターのようにキャンプをサポートしてくれる子どもも出てきました。

2015年度は新たにCWS Japanの支援を受け、昨年9月には児童養護施設いわき青英舎の児童を対象とした海浜キャンプをYMCA三浦ふれあいの村で実施しました。参加した2歳から高校生までの23人は震災後、度も海を体験したことがなく、中には生まれて初めて海を体験する子どもたちもいました。三浦では、シーカヤックやイカダ、磯遊びを元気よく体験し、口喧嘩つきの悪い子どもたちもぐちゃぐちゃに寝たそうです。震災後、ネットによる理由による児童養護施設への入所が増え、震災がこういう形で子どもたちにも深く影響していることを知りました。しかし、このキャンプは参加した中学生と大学生のユースリーダーたちとの心の交流も強く、施設退所後の進学や就労などのイメージが描きにくく子どもたちにとって良い機会になっています。12月の東山荘での雪を体験するキャンプの後、3月末には三浦で海浜キャンプを開催します。昨年からは、宿舎での生活となり、ストレスをためている子どもたちも思い切り遊べる機会と、中学生が前向きに将来を捉えていけるような就労体験などを盛り込んだ企画を予定しています。

いわき青英舎の子どもたちは、和長浜海岸でシーカヤックを体験した



今、日本に住んでいれば誰にでも起こりうる原発の問題が、次第に見えにくくなっているように思っています。しかし、福島では、今も30万人の方々が避難生活を続けています。福島の皆さまの体験や思いを自分のこととして捉え、原発事故後の「これから」これからの向き合う活動を、共に担っていきたくて願っています。

## みんなが元気であるために

日本YMCA同盟は、日本NPOセンターとの協働事業として「支援者のためのリフレッシュプログラム」を行っています。復興支援に取り組んできた支援団体のスタッフやボランティアが、YMCA東山荘(静岡御殿場市)など被災地から離れた場所で、自分自身と支援の日々を振り返り、3泊3日を過ごします。巻頭言を執筆されたダイアンマツダさん所属のJCCCNCからの「寄附もこの活動を支えています。2014年2月の第1回から2015年11月の第6回まで、64人の支援者が参加してきたこのプログラムの講師、中谷三保子さんからのメッセージです。

帝京平成大学名誉教授 中谷三保子



なかた

「この仕事をしなくてはならない、仕事に押しつぶされそう。休んでも疲れが取れない。頑張っているのに満足感が得られない。仲間との楽しいおしゃべりや飲み会が億劫になつた」という経験をされていませんか? それは心身の疲労からくる。燃え尽き、症状がもたらす。感情労働の多いヒューマンサービスでは、心身の疲労の落とし穴に案外気付かないものです。

破壊的な大災害のように危機的な状況のもとでは被災者も支援者も能力の限界を超えて現状に立ち向かう力を発揮できることがあります。自分を犠牲にしても隣人や地域のために活動する時、そこで得られる有能感や有効感、心身を磨き使います。そして、いつかは疲労蓄積による心身の機能低下をもたらすのです。この症状を、燃え尽き症候群と呼びます。心身のエネルギーの枯渇は、仕事の達成感を得難くし、仕事への情熱や動機づけを減退させてしまいます。また、他人に対する愛情や思いやりの心も薄れ

てきたと感じるようになります。このような時期には、山積している課題を前にして「ト(人)は、休息することに罪責感を持ちやすいのです。

長年にわたる活動は、支援グループの目的喪失や混乱からグループに疲弊をもたらすこともあります。相互の人間不信や葛藤が生じるのは、互いに共感し受容する心のゆとりが失われていくためです。しかし、中長期支援は、地域住民の手で生活を立て直していくための活動であるべきで、それゆえ達成感や有能感を受容する主役は被災住民です。

東日本大震災を通して私たちは、みんながいつも心穏やかに活動することの難しさを経験しました。それを乗り越えるためには、心身の疲労マネジメントを理解し、ピア仲間同士が支え合い、心身の健康を管理することが大切です。適切な心身のリフレッシュプログラムも役に立つでしょう。ヒトは誰も回復する力を持っています。自分だけで悩みを抱え、助けを求めないでください。

## 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 濱塚有史

震災の時小学6年生だったカツォーは、あまり震災のことは語りたがりません。話すのはもっぱら「単一」と「就職」のことです。

「最近ポツリポツリと当時のことを覚えてくるようになりました。先日は飯沼住居の餅つきに参加。おじちゃん、おばあちゃん地元の話題で盛り上がりつつありました。



湘南とつがYMCAでは、幼児スイミングクラスの指導も体験した



富士山を見上げて、しばしば話をする

# 2015年度日本YMCAユースボランティア認証者

## 今年度は25YMCAから599人がYMCAの担い手として仲間に加わりました。

1994年から認証制度開始。  
これまでの認証者総数は15,361人



### YMCA ボランティアの定義

YMCAのボランティアとは、日本YMCA基本原則に示されている使命の実現のために、YMCAの行うさまざまな活動や組織の運営、また、YMCAが他団体と協働して行う諸活動に、①自らの自由な意志によって(自発性)、②主体的に、責任をもって参加し(主体性、責任性)、③金銭や名譽などの報いを目的とせず(無償性)、④人びとや社会のために働き(利他性、社会性)、⑤人びとと痛みや喜びを分かち合い(相互性)、⑥継続的に(継続性)、よろこんで自らの時間や努力、知識や能力、金銭などを提供する者をいう。

北海道YMCA 花井のえ美 瀧谷佳奈 藤谷佳奈 高杉みずほ 佐内直弥 佐久間花鈴 飯名優希 仙台YMCA 佐藤誠太郎 小野公平 三品映一郎 堀越健太 小林拓矢 長谷川大加 加藤昭任 鈴木博裕 中山健太 西條希望 神元りか 谷中季衣 鹿野更紗 須藤小晴 保坂彩花 黒森成美 水間若菜 小山千寿子 前田風子 大友麻衣 くまきYMCA 石野萌子 奥田みなみ 黄川崎 浅香真紀 本多みず穂 佐藤あや 志村芽佳 とちぎYMCA 高津戸祐嗣 塚本貴大 酒井舞 小出麻結	浅野里実 末永千結 須江卓矢 橋本裕賢 市毛雅人 有賀千恵 吉森仁美 関英里 高津戸杏 大賀美 川口夏菜子 渡邊菜々 吉本涼夏 寺山綾香 村上桃佳 代田哲子 柳山千歳 神山千波 千歳YMCA 井上美 辻沙季子 会田祐哉 石川悠平 和田温 櫻山彰 埼玉YMCA 富井佳織 田中郁萌 荒木米美 並木香奈 柳田彩恵 三森秋穂 太田崇仁 丸山千穂 立岡社太 小林桃佳 近山智美 佐藤友花 木下遥七 塚本貴大 相田杏菜 坂本雅	住本貴矢 高見理恵子 白井優美 岩崎春佳 島田美里 吉岡奈津子 龍野由紀 佐藤雅美 須藤花梨 東京YMCA 上垣内謙 坂本祐輔 小嶋恭平 小川陽介 小川美乃 関真真乃 前田優希 長岡里佳 福島由衣 森山真平 谷口琴乃 遠藤敷太海 大久保朋 倉口大 瀬戸口漢 後藤祐佳 奈良輪翔 宗村晋勝 前田友子 今津初音 帆刈政宗 奥野萌子 金子未依 米山美穂 清水梨花 中村健勝 力さおり 中村有里 大橋麻亜紗 吉行千恵子	田中有沙 須川結 野村光 石川彩美 原田慧太 日野原伸也 高橋花梨子 秋山路子 二田未未 副島麻衣子 津島由季 根本祐輔 小嶋恭平 小川陽介 小川美乃 関真真乃 前田優希 長岡里佳 福島由衣 森山真平 谷口琴乃 遠藤敷太海 大久保朋 倉口大 瀬戸口漢 後藤祐佳 奈良輪翔 宗村晋勝 前田友子 今津初音 帆刈政宗 奥野萌子 金子未依 米山美穂 清水梨花 中村健勝 力さおり 中村有里 大橋麻亜紗 吉行千恵子	西山 飛裕真 福原 聖士 望月 竜馬 山元 裕瑞希 早川 ひかる 長瀬 みなみ 秀平 卓哉 山本 真純 宮澤 彰 五十嵐 優貴 山田 江里菜 東海林 優 相立 崇 横田 裕介 関原 さくら 井上 嵩也 高瀬 優樹 矢野 正都 堀本 紗奈 長岡 真衣 久島 明美 木本 夕里愛 堀本 みちる 一原 枝理花 池田 さなえ 池田 壮志 池田 大 岩崎 英則 貝原 鈴香 村井 美幸 山崎 夏海 杉山 久美 川崎 翔太 山本 恭平 山田 大樹 山頭 隆治 稲葉 裕 河合 裕典 飯塚 俊貴 村田 浩 金 善大 藤谷 康平 小林 和生	高橋 美乃梨 藤ヶ崎 美樹 飯田 早稀 清水 桜 渡辺 葉月 狩野 真帆 東 美栄 原口 野恵理 堀田 浩佑 大城 弘矢 五十嵐 謙 阿部 剛大 林 悠馬 鈴木 楓 酒沢 晴菜 鈴木 裕也 鈴木 健斗 中野 早紀 藤原 健斗 広田 翼 渡邊 美空歩 飯村 夏美 藤引 和磨 小林 俊樹 川瀬 星 佐藤 遥 藤原 有里奈 田中 涼平 祐奈 美穂 山本 咲月 飯塚 亮介 置藤 隆太 森田 裕也 原 桃子 小林 沙代子 久礼 泉 奥村 桃奈 堀山 裕里 山内 麗司 森田 大輝 徳岡 らか	小山 晴子 門倉 里奈 高橋 理菜 村岡 慶亮 石塚 宏太 大山 怜奈 高橋 美彩季 永澤 道徳 本井 実咲 根本 慧 新井田 千春 小久保 克俊 白井 大樹 江藤 正泰 本多 成太 佐々木 千絵 阿部 朝乃佳 及川 彩登 石川 翼 佐藤 翔平 佐藤 百恵 遠谷 陽美 関 春海 高木 葉月 田中 光平 田中 万琴 藤岡 麻未 村上 俊介 山形 美優 若月 菜美 古屋 美奈子 神谷 美奈 足立 奏人 乾 由緒 堀江 友梨子 歌川 智紀 向原 芽依 興石 瑞 一場 大樹 金丸 健太 田中 万貴 小山 由希	小林 匠 山梨YMCA 詫間 梨咲 増田 玲奈 奥野 歩 清水田 綾 江頭 友希 仁科 美那 高橋 直人 和田 帆 青藤 博成 西野 理沙 湯浅 晴子 名古屋YMCA 大村 綾香 大泉 春菜 林 祐希 堀井 美佐 中野 朋子 山元 先穂 玉置 美佐 藤原 将太 旅家 美晴 杉本 千穂 西村 茜 下村 杏菜子 野村 卓史 深瀬 朝美 森本 けい 橋本 沙季 宮野 裕介 宮口 雄 中出 真裕 松井 風吾 津田 紗也加 津田 直信 三好 七海 山崎 真実 石井 瑛香	大西 永詩 小寺 智也 國澤 美樹 中崎 美生 京都YMCA 池内 香央里 井上 理沙 猪山 裕加 若崎 鞠音 内藤 舞美 北条 柚季 奥村 友梨香 川原 梨沙 北 愛実 久兼 有那 小杉 麻由子 佐山 環美 堀川 小梅 堀川 みずき 柴田 美穂 須江 李早 須河 美菜 田口 未菜 永田 爽子 西川 葵 坂本 紗季 野村 有希 橋本 裕之輔 瀧野 由起子 深瀬 朝美 松本 星華 水野 綺美 山本 紗世 吉田 菜海 津田 紗也加 佐々直信 三好 七海 山崎 真実 石井 瑛香	梅原 歩乃佳 宮本 裕加 新山 真由 吉本 夏海 宮崎 育子 伊藤 麗 鈴木 翠子 北坂 彩華 川崎 遥 尾花 ちひろ 山本 充 谷口 苺菜 吉田 理絵 安田 彩夏 福賀 万里 藤本 大輔 阪本 響一郎 中谷 光希 山本 菜々子 中尾 知美 大原 聖志 工藤 健気 西田 華一郎 野村 卓史 瀧谷 風香 瀧川 真以 松元 実穂 辻岡 優美香 田中 裕士 深瀬 朝美 森本 けい 橋本 沙季 宮野 裕介 宮口 雄 中出 真裕 松井 風吾 津田 紗也加 津田 直信 三好 七海 山崎 真実 石井 瑛香	仁木 博子 柴田 一希 石谷 謙 石木 菜莉 上西 崇広 瀧元 芳恵 中尾 美里彩 矢田 翔希 石井 徳乃 遠見 莉奈 牧瀬 由佳 小森 愛実 矢野 優輔 北 愛実 岡田 麻里 加治 沙奈悦 松村 京香 宮田 真麻 藤崎 優希 浅井 翠 山田 翔太 川岡 由加 中野 真佑 迫川 なつみ 和歌山YMCA 野村 智紀 櫻本 翔 太田 嘉代志 村上 輝 岡崎 智之 大谷 帆南 久保 あい 新谷 みづき 小佐見 量子 長森 真歩 村中 さくら 山本 歩 和田 尊之 中田 慎 田端 遼太 門野 光平	廣野 貴昭 河野 由夏 松尾 有希子 前原 佳奈 砂町 麻友 和田 佳奈子 小山 早留 青井 絵美 菅野 由香里 明石 依奈 飯田 亮 大西 美輝 奥田 謙太郎 倉本 幸治 幸川 祐花 竹内 愛美 長谷川 万莉 宮崎 知雄 中 正法 小田 真季 京保 真志 近藤 心 清水 湧斗 関家 聖一郎 信田 恵助 平井 晋 松原 晶人 山本 裕一 泉川 友香子 若本 美名 宇治田 春美 櫻山 妃未子 久野 碧利 小佐見 量子 後藤 穂美 小山 由真 高見 優佳 富井 奈緒子 共田 彩海 田中 慎 田端 遼太 門野 光平	山田 慎也 高月 渚 関口 祐樹 末武 佳織 下村 春海 家田 夏海 石橋 朋佳 千原 沙友里 中野 知世 藤原 悠香 坊 奈奈美 前田 美咲 松松 ゆかり 指原 圭菜子 横道 千砂都 山口 静香 本川 真優子 船越 寛子 結城 真由 長尾 匡浩 藤田 千晴 YMCASEとちぎ 井上 カンナ 入江 美緒 江川 友夫 岡村 彩音 小野 典子 清原 美優 黒島 和香 志水 聖 妹尾 知子 滝澤 綾芽 高瀬 真歩 沼本 沙織 平野 雄一 真部 香苗恵 宮根 元気 望月 望里 望月 美里 山本 華奈	広島YMCA 黒川 唯 竹下 侑奈 橋口 将太 原 美帆 塩田 美菜 川谷 奈央 永田 萌 金丸 歩未 宮牧 理恵 熊本YMCA 林 光斗 松川 虎太郎 上野 秀人 白石 南斗 尾下 紗美 江口 隆治 西村 裕美 中村 美穂 横山 善一郎 横山 千恵 渡邊 ちひろ 吉田 愛 矢野 りえ 宮崎 愛美 福岡YMCA 増川 幸菜 本多 亜妃 吉武 佐知美 平野 花奈 野村 昌子 大森 穂奈美 高森 はる絵 山川 美里 山崎 翔太 内丸 英莉 降林 幸紀 森本 朝衣 岡田 希美 大井 成美 吉澤 夏織 米澤 七海
---	---	--	---	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--

### NEWS

各地の動きをご紹介します。

## ●「第6回 日中韓YMCA平和フォーラム」に参加

### ——日本YMCA同盟

日本からの参加者: 13YMCAから29人(内、ユース11人)

2015年12月19~23日に中国・南京で開催されたフォーラムには日本・中国・韓国からユース34人を含む75人が参加しました。ユース(学生、リーダー、スタッフ)とシニア(ボランティア、スタッフ)が共に集い、日中韓YMCAがこれまで築いてきた絆をさらに強め、未来の平和について考えました。南京大虐殺記念館では、戦争がいかに非人道的な行為で、人を狂気に駆り立て、人びとの命を奪うかを詳細に伝える展示を前に、言葉にならないものが喉のあたりまでこみあげてきました。国や世代を越えた参加者同士の意見交換や交流では、考え方や認識の違いに気づき、自分自身が無意識にステレオタイプの見方や判断に促われているのではないかと、認識や価値観を見直すきっかけとなりました。

平和とは何か、平和の実現のために何が出来るのか……。ユースたちで頭を抱えながら話し合う中、答えは意外にも身近なところで見つけることができました。それは、各国の文化交流体験やフェアウェルパーティでの、笑いの絶えないひと時でした。言語・文化の違いや国の枠を越えた交流、まさに平和はこの瞬間に生まれていると感じたのです。その体験から私



クリスマス礼拝では、日本のユースが日中韓の3カ国語で司会を行った(中央が沖さん)

ち日本のユースは、「Make More Friends=友達をたくさんつくろう」というテーマでこれからのアクションプランを作りました。一緒に体験したり、悩んだり、楽しい時間を共有する中で育まれる友情が、平和を生み出すという考えです。そして2年後のフォーラムはユースが主体で企画し、参加者の交流を充実させようと話し合いました。

戦後70年の今、思われた、平和に見える社会でも、いじめや差別、他者への暴力といったUnpeaceful(平和ではない状態)が日常生活の中でたくさん起こっています。YMCAスタッフとして次世代の子どもたちへの平和教育を考えながら、平和の実現につながる取り組みを身近なところから実践していきたいと思えます。

広島YMCA 沖 麻実

## 100 YMCA東山荘 次の100年に向けて ③

### 「あさが来た」その後—東山荘献堂式での祝辞

NHK朝の連続テレビ小説の主人公「あさ」のモデル、広岡浅子は、100年前、東山荘設立募金の中心人物でした。国内での募金が思うように集まらず、4年間も工事が手付かすの状態であった時に三井、三菱、渋沢からの大口の寄附を集め、ご自身も300円(当時)を捧げてくださり、晴れて竣工することができたのです。その少し前、浅子は63歳の時に、宮川経輝牧師により大阪教会で洗礼を受けました。キリストによって新しく生まれ変わったことへの感謝を表す働きの一つが、東山荘建設のための募金集めだったと言えます。



2月14日~3月6日、東山荘にて「聖蹟の広岡浅子展」開催

この4年後の67歳の夏、東山荘の献堂式で、浅子は次のような祝辞を述べました。「第一に全国青年の諸君のために、第二はその青年によって改善すべき社会のために、満腔のお喜びを申し上げます。今日万般の社会をみると、青年の力によって改善すべき点が決して少なくありません。ことに信仰ある青年の人格者が現われて、わが国の上下に彌漫する腐敗を一掃して戴かなければなりません。社会一般の風儀の改新、男女間の関係の廓清は急を告げております。そしてその任にあたる者は基督教徒の外にありません。(中略)しかし此の国を基督教化するためには、諸君と共に竟世の努力をしたいと熱望している者であります。」

政党政治の腐敗や軍部の横暴、女性蔑視、側室制など、封建制からの根本的な解放は日本人のモラル変革の問題であり、そのことはキリスト教の倫理観に立つ次世代の青年の力なくして解決することはできないと164人の青年に語りかけています。青年の限りない成長を確信していた浅子の信仰を継承し、東山荘はこれからの100年も、YMCA運動を牽引していく場であり続けたいと願います。

YMCA東山荘所長 堀口 廣司

※宮川経輝牧師:大阪YMCAの初代会長。第5回、第17回のYMCAの夏季学校では校長を務めた。

## INFORMATION 学生YMCA2016年度新入寮生募集中

### “一生の友”との出会いが、あなたを待っています

125年以上の歴史を持つ学生YMCA寮は、これまでに多くの社会的リーダーを輩出してきました。自治を基本とした共同生活で自主性と協調性を培い、イエス・キリストの精神に触れ、互いに学び、仕え合うことを目指しています。

入寮条件は寮によって異なります。関心のある方は、日本YMCA同盟または、各大学YMCA寮までお問い合わせください。

## 大学YMCA寮のある大学

- 北海道大学、東北大学、東京大学、早稲田大学、一橋大学、京都大学、京都府立医科大学、九州大学、熊本大学、長崎大学

